

# 笑顔

熊本市高齢者支援センター ささえりあ帯山  
 熊本市中央区保田窪1丁目1-33 第2大田ビル1階  
 第35号 電話:096-241-0230 FAX:096-241-0232  
 平成28年4月 E-mail:sasaeriaobiya@kyouninkai.jp  
 http://www.kyouninkai.jp/obiya /



## 地域包括ケア の実現に向けて

## 地域ケア推進会議兼学習会 ～おしょうゆが借りれる街づくり～



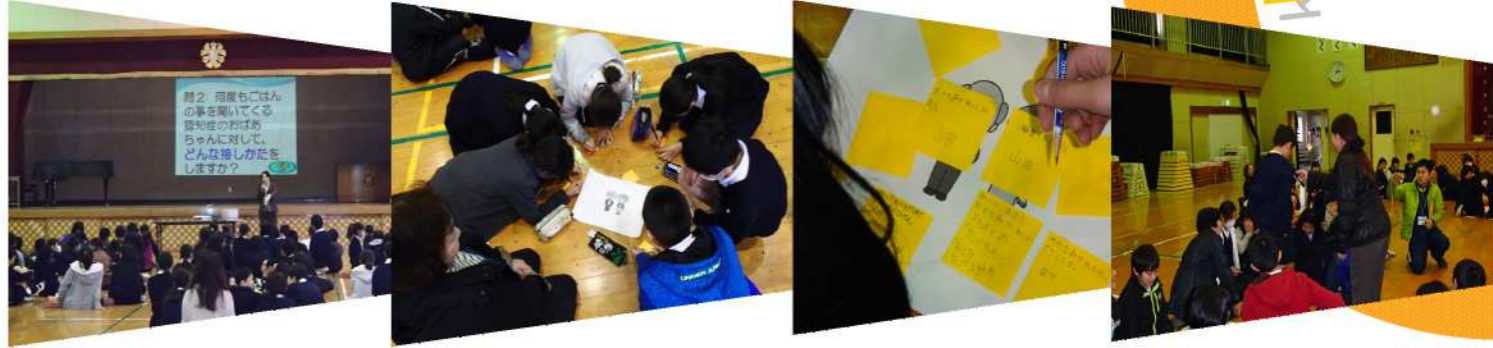
平成28年3月28日(月)、水前寺共済会館グレースシアにて託麻原校区社会福祉協議会主催のもと学習会が開催されました。当日は、託麻原校区の地縁組織の方々をはじめ、帯山校区及び帯山西校区の各団体長、更生保護団体、熊本学園大学や熊本高校の学生、居宅介護支援事業所、サービス事業所、市社協や行政等多くの参加がありました。前半は、託麻原校区の未来予測調査(校区自治会、老人会へのアンケート調査)の報告。続いて、「2町内・ふれあいサロン」の川上氏、「4町内・いきいきサロン」の佐藤氏、「14町内・仲良し健康サロン」の深草氏、「帯山西校区・お茶べり広場」の浦川民児協会長より「集いの場」立ち上げのきっかけや特徴、良かった事について、また「帯山校区2町内・ほがらかサロン」は吉田自治会長より自治会としての立場で報告と紹介がありました。後半の学習会では、校区の未来を想像しながら「場づくり」や「担い手の発掘」をテーマにして、現在の状況を踏まえながら町内ごとに分れてグループワークが行われました。「自分の町内は何もしていないことに気が付きました。自営会さんより「場」の提供を快諾して頂きました。〈13町内・辻氏〉、「今回の件で、地域の努力や苦労がみえた。その中で

場の提供や担い手としての役割があるのではないだろうか。〈デイサービス青明・熊部氏〉等、喜びの声や事業所の役割、可能性について発表がありました。その後も、託麻原校区の「未来の姿」について具体的な目標を各グループで議論し、熊本高校の学生〈右山くん〉が、自分の考えを交えながら頼もしくしっかりとした発表をしてくれました。最後に、託麻原校区社会福祉協議会の濱会長より、「5年後、10年後とずっと地域で住んでいく為にも、担い手を探していけないといけない。その為には、若いお母さんなどを早めに誘う事が重要である。そうすることで、おのずと5年後、10年後と顔の見える地域になっていこう。またそういう地域にしていきたい。」と「未来の姿」を宣言されました。今回の学習会では、事業所を含めた託麻原校区の方々以外にも、学生(近くの若者)、帯山・帯山西校区の方々(近くのよそ者)も加わって頂き、「地域力」がさらにパワーアップした事を感じました。来年度からの託麻原校区の町内の動きが期待され、同時に私たちささえりあ帯山も、そのような場には是非とも参加させて頂き、お手伝いが出来ればと改めて感じる事が出来た大変良い機会となりました。



## supporter

平成28年2月12日(金)に、託麻原小学校6年生を対象とした認知症サポーター養成講座を開催致しました。今回はフォレスト熊本の藪亀氏と、橋本氏と一緒に「認知症を正しく知る」という事や「高齢者の体の変化」をテーマに、実際に体を動かしたりしながら認知症の人の気持ちについて一緒に学びました。また、託麻原校区の民生委員の方々や近隣の事業所さんにもグループワークに協力して頂き、認知症の人への対応の仕方を子供達と一緒に考えました。「世代を問わず、地域で支え合う地域」という事を、子供達が感じてくれると嬉しいなと思います。



## ちょこっと NEWS!

熊本県立熊本高校の家庭科・岩下先生のご提案で、熊本高校1年生と託麻原校区にお住まいの地域の高齢者との合同調理会が実施されました。これは、合同調理を通して交流をすることで、地域の持つ魅力や課題について認識を深め、生徒の生きる力を身につける事が目的です。合同調理では、高校生と高齢者と助け合いながら太巻きと呉汁を作り、と～っても美味しく楽しく頂きました♪



←太巻きと呉汁の完成で～す♪  
料理は心！  
見た目じゃありません(笑)

## 「認知症介護家族のつどい」

今回、3月開催の認知症介護家族の会は、家族の参加がありませんでした。よって、来年度の告知を載せたいと思います。

【揭示版】  
 託麻原校区社協主催で「認知症介護家族のつどい」を開催しています。本年度も、年四回の開催を予定しており、初回は六月四日(土)です。  
 場所：託麻原校区地域コミュニティセンター和室  
 時間：十三時三〇分～十五時まで  
 託麻原校区の方に限らず、認知症の方(診断されていなくても)を介護されている方なら、となたでも参加可能です。参加費無料、事前申し込みも不要です。気軽にお立ち寄り頂きたいと思えます。

## ★編集後記★

新年度を迎え、皆様何かとお忙しいと思いますが、いかがが過ぎでしょうか？  
 私は、今年度も引き続き認知症地域支援推進員として、熊本市全域の認知症に関する相談等を担うことになりました。昨年度の反省としては、ささえりあ帯山が担当している校区以外での活動が大半を占めていたので、地域の皆様と顔を合わせる機会が激減してしまつたことです。今年度はできる限り地域の皆様と一緒に様々な活動ができるように努力します。  
 牛島 太郎



# 地域包括ケア

の実現に向けて

地域に寄り添い 地域の特性を知り 地域の基盤を創っていく

## 平成27年度 統合的ネットワーク研修会

ー全世代・全対象型地域包括支援体制づくりの構築方法を学ぶ

平成28年1月10日(日)、熊本学園大学14号館にて開催。各区の地域包括支援センター・圏域の居宅介護支援事業所・サービス事業所・行政・障がい者相談支援センター関係職員等、約80名の方々に参加頂きました。厚生労働省は、平成27年9月にプロジェクトチームを構成し、介護・障がい・子育て・生活困窮者といった分野の垣根を越えた、相談支援体制構築を目指す事を示しています。研修会では、先の体制づくりを既に実践されている、水俣市地域包括支援センター・障害者支援施設「石踏の里」・水俣市社会福祉協議会より、**介護と障がいのワンストップサービスの相談支援**についての体制づくりや連携などの紹介をして頂き、後半はグループディスカッションを行いました。各グループ、分野は違えども今後の地域福祉を支える志を持った者同士「今自分達ができる事」を真剣に議論できました。



熊本県「地域包括支援センターネットワーク等強化事業」

## 平成27年度 コミュニティ・マネジメント研修会

ーコミュニティを改善していく地域づくり戦略を学ぶ



熊本県「地域包括支援センターネットワーク等強化事業」

平成28年2月14日、水前寺共済会館グレースにて開催。この研修会では、熊本大学政策創造研究教育センター准教授の河村洋子先生をお招きし、**マーケティングの考え方に基づく“ソーシャル・マーケティング”**についてお話し頂きました。今回も熊本市各区の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、行政等約70名の方々に参加頂き、地域での健康づくりやまちづくりにおいて、地域の事をしっかり把握することや目的と狙いをしっかり確認することが重要であるという事、さらに、実際にどのような取組みをしていけば良いのか、それぞれの対象や状況に応じた行動変容の技術について学ぶ事が出来ました。今後、地域の皆様や専門職間の連携を図っていくうえで、今回学んだ技術を活かしていければと思います。

ソーシャル・マーケティングとは・・・個別の企業や消費者のためではなく、広く社会の利益を拡大するという立場に立って社会問題を解決するために行われるマーケティング活動のこと。



## 在宅医療介護連携事例検討会

平成28年1月30日(土)、水前寺共済会館グレースにて開催。前回、「地域包括ケアの実現に向けたリハビリテーションと介護の役割」をテーマとしたフォーラムを開催し、その第2弾として今回は、フォレスト熊本通所リハビリテーション科科长 園村加奈子氏の事例をもとに検討会を開催しました。熊本学園大学社会福祉学部准教授黒木邦弘先生にコーディネートをお願い、市社会福祉協議会、校区社会福祉協議会会長をはじめ、民生委員、地域福祉推進委員、市役所高齢介護福祉課、子ども保健課、居宅介護支援事業所、病院の相談員、リハビリスタッフや介護事業所の皆様と、それぞれの立場から意見交換を行いました。病院、施設、自宅と居場所が変わるなか、一方向だけの情報伝達に終わらず、



「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団」助成金事業



双方向での情報共有の必要性と重要性に気づくことが出来ました。それぞれの立場で何を求め、どんな情報が必要なのかということを確認できた、貴重な場となりました。本当にありがとうございました。



## 高齢者・障がい者虐待防止ネットワーク



平成27年度“**高齢者・障がい者虐待防止ネットワーク**”を、熊本市障がい者相談支援センターウィズと立ち上げ、今年度は2回の事例検討を行いました。中でも、ささえりあ帯山やウィズが介入した、それぞれの虐待ケースを振り返り、自分たちの行った対応方法に間違いはなかったのか、他により良い支援方法はなかったのか、さらに弁護士・司法書士の先生方には法律面からのご提案も頂きながら、支援検討の視点や状況判断の方法、今後の展開を予測しながら

対応する事などを学びました。また、ささえりあ帯山とウィズで受ける虐待ケースの違いも知り、お互いの専門分野領域の知識を足し合うことで、より有機的な連携やネットワークが築けるものと感じました。平成28年度も引き続き、実際に介入させて頂いたケースの事例検討を用いながら、高齢者と障がい者の重複的課題を虐待対応にフォーカスを当てて勉強していきたいと思っています。

